



Color & Comfort by Chemistry

株主のみなさまへ

第117期 報告書 (中間) 平成26年1月1日～平成26年6月30日



DIC 株式会社



Color & Comfort by Chemistry

化学で彩りと快適を提案する

Contents

株主のみなさまへ	3
連結業績	4
Topics	7
サステナビリティ（持続可能性）特集	8
会社概要・株主メモ	10
DIC川村記念美術館のご案内	11

株主のみなさまへ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援、ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。新たに株主となられた皆様には、心よりお礼申し上げますとともに、末永くご支援の程お願い申し上げます。

さて、当社では、“STEP BEYOND” 一次代を見据え、果敢に踏み出す一をスローガンに、中期経営計画「DIC105」を昨年4月よりスタートし、最終年度にあたる2015年度には過去最高益となる営業利益600億円の達成を目指しております。現在この目標を達成すべく、グループの総力を挙げて取り組みを進めております。

「DIC105」の2年目となる当社第117期における第2四半期までの営業が平成26年6月30日をもって終了しましたので、ここにその概況をご報告申し上げます。

連結業績のご報告

当社グループを取り巻く事業環境については、北米・欧州においては、景気の回復が継続する一方、アジアでは、中国において成長鈍化の傾向が見られた他、東南アジア、インドにおいても需要は伸び悩みました。国内においては、景気回復基調にあるものの、消費税率引上げに伴い、需要は弱含みで推移しました。

このような事業環境の中、当連結累計期間の売上高は、4,084億円と前年同期比※7.7%の増収となりました。

営業利益は原料高の影響などにより、198億円と前年同期比※1.9%の減益となりました。

経常利益は、184億円と前年同期比※0.9%の減益となりました。

四半期純利益は、103億円と前年同期比※6.5%の増益となりました。

通期の連結業績見通しと配当金

事業環境については、国内においては、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が薄れ、緩やかに回復していくものと見込まれ、海外においても、米国及び欧州



で持続的な需要回復が期待されます。

一方、中国、インド等の新興国においては、成長鈍化に伴う景気の下振れリスクが引き続き予想されます。このような環境の中、当社は中期経営計画「DIC105」に基づき、欧米インキ事業の再構築、成長牽引事業の拡大をはじめとする重点戦略へ総力を持って取り組み、通期の業績は売上高8,500億円、営業利益500億円、経常利益460億円、当期純利益245億円と、前期比で増収・営業増益を見込んでおります。

当期の配当につきましては、1株当たり3円の間配当を実施し、期末配当としても1株当たり3円を予定しております。当社は、安定した経営基盤の確立を目指すとともに、株主の皆様への利益還元をより充実させていくことを基本方針と考えています。また内部留保資金については、その充実に努めるとともに、企業体質を一層強化することで株主の皆様の将来的な利益拡大に寄与すべく、より有効に使用して参ります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役
社長執行役員

中西義之

※第116期より決算期を3月31日から12月31日に変更したことにより、前年同期との比較については、当期連結対象期間と同一の期間に調整した数値を前年同期実績とし、調整後の前年同期実績との対比による増減比を記載しています。

事業セグメント別業績の概況

プリンティングインキ



日本では、グラビアインキは、需要が堅調に推移しましたが、オフセットインキ及び新聞インキは、需要減少の影響などにより減収となりました。北米・欧州においても、パッケージ用インキは堅調に推移しましたが、出版インキの継続する需要減少の影響等により減収となりました。アジアでは、中国において、グラビアインキが好調に推移しましたが、成長鈍化の影響などによりオフセットインキおよび新聞インキが落ち込み前年同期並となり、東南アジアにおいては、グラビアインキ及び、オフセットインキが堅調に推移し、増収となりました。インドでは、全品目が好調に推移し、増収となりました。以上の結果、全体として現地通貨ベースでは前年同期並となりましたが、円安の影響により、増収となりました。営業利益は、欧米における合理化効果等により、増益となりました。

ファインケミカル



顔料は、国内ではカラーフィルター用が大きく伸びたほか、インキ用も堅調に推移し、欧米ではプラスチック用や化粧品用及び光輝材が伸びたことなどにより、国内外で増収となりました。TFT液晶は、需要は底堅く推移しましたが、拡販の遅れなどにより、減収となりました。以上の結果、全体としては増収となりました。

営業利益は、上記の売上状況に加え、品目構成の改善などにより、増益となりました。

ポリマ



国内では、エポキシ樹脂は土木・建築向け需要が堅調に推移したこと、塗料用樹脂は電気・電子向け需要が拡大したことなどにより、増収となりました。ポリスチレンは、需要が拡大したことなどにより、増収となりました。海外では、中国において需要が堅調に推移したことなどにより、増収となりました。以上の結果、全体として増収となりました。

営業利益は、原料高騰に対する価格は正の遅れなどにより、減益となりました。

アプリケーションマテリアルズ



工業用粘着テープは、スマートフォン向けの一部顧客の需要が減少したこと、機能性光学材料は、電気・電子向け需要が減少したことなどから、減収となりました。一方、PPSコンパウンドは、自動車関連用途に加え、電気・電子及び住設関連向けも好調に推移したこと、インクジェットインキはシェアが拡大したことなどから、全体としては増収となりました。

営業利益は、上記状況に加え、品目構成の改善などにより、大幅な増益となりました。

※第116期より決算期を3月31日から12月31日に変更したことにより、前年同期との比較については、当期連結期間と同一の期間に調整した数値を前年同期実績とし、調整後の前年同期実績との対比による増減について記載しています。

連結グループネットワーク

🟡 プリンティングインキ 107社

DICグラフィックス株式会社
Sun Chemical Group Cooperatief U.A.
南通迪愛生色料有限公司
DIC India Ltd.
DIC Australia Pty Ltd.
DIC (Malaysia) Sdn. Bhd.
上海DIC油墨有限公司
他100社

🟢 ファインケミカル 7社

連雲港迪愛生色料有限公司
他6社

🟠 ポリマ 26社

星光PMC株式会社
ディーエイチ・マテリアル株式会社
DIC北日本ポリマ株式会社
DIC九州ポリマ株式会社
Siam Chemical Industry Co., Ltd.
常州華日新材有限公司
迪愛生合成樹脂(中山)有限公司
張家港迪愛生化工有限公司
DIC Performance Resins GmbH
他17社

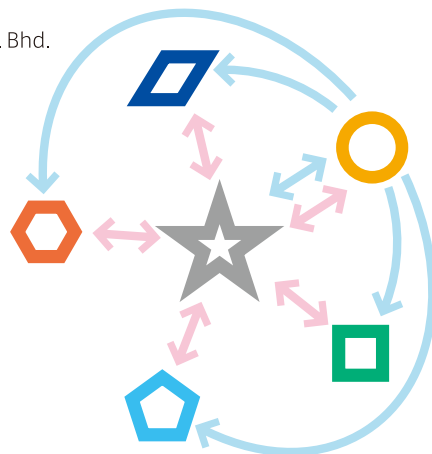
🟣 アプリケーションマテリアルズ 23社

DIC EP株式会社
DICプラスチック株式会社
DIC化工株式会社
DICフィルテック株式会社
株式会社不二レーベル
DIC Compounds (Malaysia) Sdn. Bhd.
上海迪愛生膠粘材料有限公司
他16社

🟡 その他 15社

DIC Asia Pacific Pte Ltd
迪愛生投資有限公司
青島迪愛生精細化学有限公司
他12社

★ DIC 株式会社



← 原料・製品・商品
← サービスの提供

セグメント情報

■売上高

(単位: 億円)

	前第2四半期 実績(累計) (調整後)	当第2四半期 実績(累計)	前年同期比 (%)
プリンティングインキ	1,904	2,020	+6.1%
ファインケミカル	627	690	+10.1%
ポリマ	842	942	+11.9%
アプリケーションマテリアルズ	589	613	+4.1%
その他、全社・消去	△171	△181	—
連結合計	3,791	4,084	+7.7%

■営業利益

(単位: 億円)

	前第2四半期 実績(累計) (調整後)	当第2四半期 実績(累計)	前年同期比 (%)
プリンティングインキ	71	73	+1.9%
ファインケミカル	66	70	+5.3%
ポリマ	56	41	△27.9%
アプリケーションマテリアルズ	29	37	+27.4%
その他、全社・消去	△20	△23	—
連結合計	202	198	△1.9%

※第116期より決算期を3月31日から12月31日に変更したことにより、前年同期との比較については、当期連結期間と同一の期間に調整した数値を前期実績として記載し、調整後の前年同期実績との対比による増減比を記載しています。

連結業績

セグメント情報

連結貸借対照表 (要約)

平成26年6月30日現在

		(単位: 億円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金・預金	290	支払手形・買掛金	1,106
受取手形・売掛金	2,238	短期借入金(含む長借1年以内・CP)	1,296
たな卸資産	1,528	その他の流動負債	692
その他の流動資産	183	流動負債 合計	3,093
流動資産 合計	4,238	長期借入金・社債	1,958
有形固定資産	2,268	その他の固定負債	515
無形固定資産	138	固定負債 合計	2,473
投資その他の資産	1,219	負債 合計	5,566
固定資産 合計	3,625	株主資本:	
		資本金	966
		資本剰余金	942
		利益剰余金	967
		自己株式	△ 9
		その他の包括利益累計額:	
		為替換算調整勘定	△ 480
		その他	△ 322
		少数株主持分	234
		純資産 合計	2,298
資産 合計	7,864	負債及び純資産合計	7,864

連結損益計算書 (要約)

平成26年1月1日～平成26年6月30日まで

		(単位: 億円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
売上高	4,084		
売上原価	3,241		
販売費及び一般管理費	645		
営業利益	198		
金融収支	△ 26		
持分法による投資利益	14		
為替差損益	△ 8		
その他	5		
経常利益	184		
特別利益	6		
特別損失	△ 41		
税金等調整前当期純利益	149		
法人税等	△ 43		
少数株主利益	△ 3		
当期純利益	103		

連結キャッシュフロー計算書 (要約)

平成26年1月1日～平成26年6月30日まで

		(単位: 億円)	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 39		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 181		
フリーキャッシュ・フロー	△ 221		
財務活動によるキャッシュ・フロー	348		
現金及び現金等価物に係る換算差額	△ 3		
現金及び現金等価物の増減額	124		
現金及び現金等価物の期首残高	150		
現金及び現金等価物の期末残高	274		

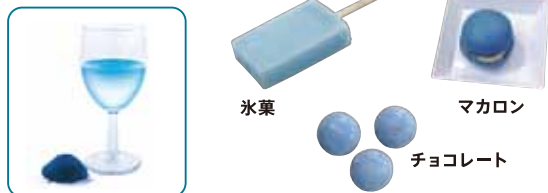
安全・安心な食品用色素のニーズが高まる中で天然系青色素「リナブルー®」の供給力を拡充

世界的な健康・安全志向の高まりから、食品業界では合成色素から天然系色素に切り替える動きが加速しています。数少ない天然系青色素の最大メーカーであるDICグループは、この需要に応えるため米国の生産拠頭に新たなプラントを建設して供給力の強化を図ります。

「リナブルー®」は食用藻を原料に抽出する天然の青色素

「リナブルー®」は特殊な条件で育つ微細藻「スピルリナ」から抽出した鮮やかな青色素「フィコシアニン」を商品化したものです。スピルリナは、もともとアフリカで良質の栄養源として食されていたことから研究が始まり、DICが1977年に世界で初めて管理培養技術を確立。以来、栄養補助食品として生産販売するとともに、天然系青色素の世界最大メーカーとして、菓子、デザートなどに供給しています。

天然系青色素「リナブルー®」



氷菓

マカロン

チョコレート

日本は天然系色素の先進国、その潮流は世界各国へ

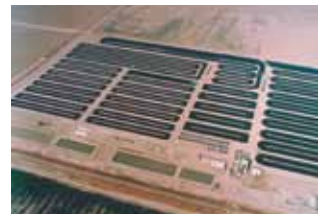
日本では早くから合成色素の安全性に対する消費者の関心が高まり、天然系色素への切り替えが進んでいます。

欧米でも2008年頃から合成色素が敬遠され、天然系色素への切り替えが加速しています。こうした中で2013年9月、スピルリナ抽出物が米国食品医薬品局から食品用天然系青色素として世界で初認可され、欧州委員会からも食品の「ナチュラルカラーガイドライン」が示され、リナブルー®が販売可能になりました。これによってリナブルー®の高い安全性が再認識され、日本・韓国・中国に続いて欧米・東南アジアにも需要拡大が見込まれています。

原料から製品までの一貫生産を通じて安全品質を確保

高品質の青色素を得るには、厳密に管理した培地で優良な藻を育て、原料粉末に加工するまでの品質管理が重要です。さらに、フィコシアニンを抽出して精製濃縮・色価調整・殺菌などを施す一連のプロセスを通じた「安全品質」こそ、DICリナブルー®が圧倒的なシェアを確保している要因です。また、藻は培養過程でCO₂を吸収して酸素を排出することから、スピルリナ800トンの生産で1,200トンのCO₂を吸収します。

リナブルー®の新プラントを建設中の米国のグループ会社アースライズ社(カリフォルニア州)



藻の培養管理から最終製品まで一貫生産



「CSR」(社会的責任) から 「サステナビリティ」(持続可能性) へ

DICグループは2007年度に、CSR (Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任)を経営に取り入れました。経営の基本的な考え方である、「The DIC WAY」に基づき、CSRの基本を「事業活動を通じて社会的責任を果たし、社会の発展に寄与していくこと」と位置づけてきました。

昨今、地球温暖化や深刻化する資源問題など、企業を取り巻く課題はますます多様化する中で、“地球環境・生態系・社会経済システムなどに配慮し、持続的に発展すべき(サステナビリティ)”との認識が、急速に高まっています。DICグループは、この認識に基づき取り組みを進めてきました。

2014年からは取り組みの方向性をより明確にし、

グローバルな事業活動に相応しいものに位置づけるため、名称を「CSR」から「サステナビリティ」に変更し、活動を行っていくことにいたしました。

DICグループでは、サステナビリティ基本方針の中で 1) 安全と健康の確保、2) 公正な事業慣行・人権と多様性の尊重、3) 環境との調和・環境保全、4) リスクマネジメント、5) イノベーションによる社会的価値の創出を掲げ、これを強く意識した事業活動を推進しています。この取り組みをたゆまず継続していくことで、「社会・地球環境のサステナビリティ」に貢献するとともに、自身のサステナビリティを実現し、ステークホルダーの皆様をはじめ、社会全体から信頼される企業であり続けたいと願っています。

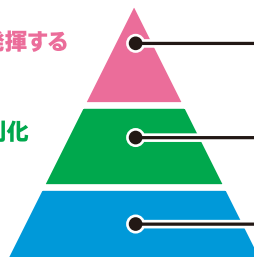
サステナビリティ・テーマの推進

具体的なサステナビリティの取り組みを展開するために、DICグループでは、「基幹的なテーマ」、「独自性を発揮するテーマ」、「独自性を発揮するテーマ」、および「基幹部分・独自性の双方に跨るテーマ」それぞれについて、10のサステナビリティ・テーマを設けて、テーマごとに年度の目標と活動計画を定めながら、着実な取り組みを進めています。

独自性を発揮する
テーマ

基幹～差別化
テーマ

基幹的な
テーマ



社会課題のビジネス展開
新技術と価値の創造
社会との共生・社会貢献
ステークホルダーとのコミュニケーション

安全・環境・健康および品質
人材マネジメント
サプライチェーン展開

コンプライアンス
リスクマネジメント
情報セキュリティ

「グローバルに信頼され誇りある企業市民」であり続けるために

DICグループは、2010年12月に国連グローバル・コンパクト (GC) に参加しました。また、「社会的責任」に関する国際規格であるISO26000 (2010年11月発行) のガイドラインを尊重しながら、企業活動を進めています。

サステナブルな社会の実現のための取り組み

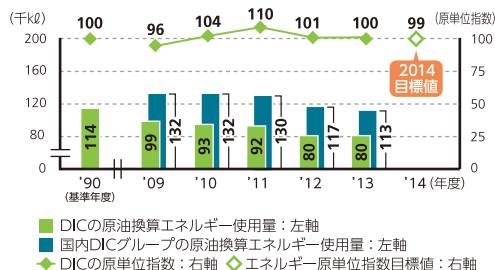
地球温暖化防止への取り組み

地球温暖化への対策が求められる中、DICはエネルギー使用量の削減を通じて、工場から排出する温室効果ガスの削減に取り組み、データを積極的に公開しています。

1) 国内での取り組み

2013年度のエネルギー使用量は原油換算で113.5千Kℓ（前年度比99.8%）となり、エネルギー原単位は製造工程で生じる副生油の熱利用や廃熱回収の取り組み等の結果、前年度比1.5%減となり、年度目標（1%減）を達成しました。一方、CO₂排出量（24万4377トン）は原子力発電所の稼働停止の影響で、電力消費のCO₂換算係数が上昇したことが主要因となり、前年度比6.4%増加しました。2014年度は、さらなるエネルギー効率の向上策を推進し、CO₂排出量の削減に取り組みます。

原油換算エネルギー使用量と原単位指数の推移

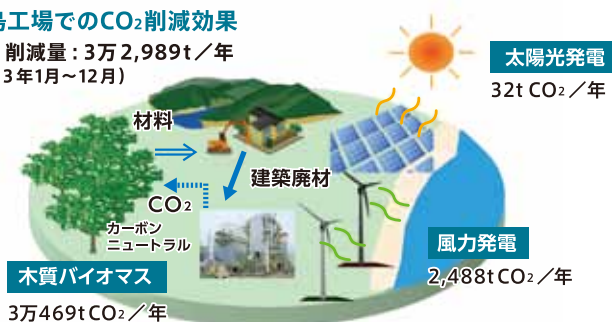


※2013年は1月～12月のデータを集計しています。

再生可能エネルギーの活用とコージェネレーションの稼働

鹿島工場でのCO₂削減効果

CO₂削減量：3万2,989t/年
(2013年1月～12月)



条件の適した事業所では、再生可能エネルギーの積極的な導入を図っています。2013年度は、鹿島工場（茨城県）における新設の太陽光発電（80kW）に加え、バイオマスボイラー（電力2,000kW+蒸気20トン/h）と風力発電設備（4,600kW）の稼働率を大幅に向上させ、再生可能エネルギー発電量を前年度比6.1%増加させました。（国内DICグループ全消費電力量の7%を再生可能エネルギーで賄っています）

2) 海外での取組

各国・地域のインフラ事情や法規制が異なる中、化学工業界の先進的な事例となるようエネルギーの削減・効率的な運用に取り組み、2013年度は65件の省エネ施策を通じ、CO₂排出量削減量5018t・CO₂/年（前年度海外CO₂排出量の1.2%）を実施しました。

地域	取り組み件数 (件)	エネルギー削減量 (kℓ/年)	CO ₂ 削減量 (t・CO ₂ /年)
中国	20	1,292	2,941
アジア・パシフィック	37	597	1,362
その他	8	340	715

会社概要・株主メモ

■会社概要

－平成26年6月30日現在－

商号	DIC株式会社 DIC Corporation
本店	〒174-8520 東京都板橋区坂下三丁目35番58号 電話 03 (3966) 2111
本店事務取扱所	〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-101 電話 03 (6733) 3000
創業	明治41年2月15日(1908年)
設立	昭和12年3月15日(1937年)
従業員数	連結20,359名 <単体3,557名>
株式の状況	発行する株式の総数 1,500,000,000株 発行済株式の総数 965,372,048株 株主数 43,435名 1単元の株式の数 1,000株

■株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
定時株主総会	3月
期末配当金受領株主確定日	12月31日
中間配当受領株主確定日	6月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) TEL 03-6701-5000 (通話料有料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告 (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。) URL http://www.dic-global.com/
株主優待制度	毎年12月31日現在の株主名簿記載の1,000株以上ご所有の株主に対し、一律に当社DIC川村記念美術館の「株主ご優待招待券」2枚を贈呈

【ご注意】

- 住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、上記の特別口座の口座管理機関にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

DIC川村記念美術館のご案内



DIC川村記念美術館は、当社が関連企業とともに収集してきた美術品を公開するため、千葉県佐倉市の総合研究所に隣接する敷地内に1990年に設立した美術館です。

17世紀のレンブラントから、印象派、エコール・ド・パリ、日本の屏風絵、そして20世紀後半のアメリカ美術まで多彩なコレクションを展示するとともに、収蔵品にちなんだ企画展や話題の展覧会を年に数回開催しています。

2015年3月までの展覧会情報

五木田智央 TOMOO GOKITA THE GREAT CIRCUS

2014年8月31日(日)－12月24日(水)

五木田智央(1969-)は、これまでイラストレーションの分野で特異な才能を発揮し、90年代以降のサブカルチャーに大きな影響を与えてきました。

その一方で、10年以上にわたり大型カンヴァス作品を国内外で発表し続けてきた五木田は海外の美術関係者からその芸術的価値を高く評価され、今年1月のMary Boone Gallery(ニューヨーク)の個展では大きな反響を呼ぶまでに成長しました。美術館での初個展となる本展では、11点の最新作を中心に、未発表のドローイングや国内初公開となる大型作品など約90点を展観し、多彩な五木田智央の現在に迫ります。



五木田智央
《New Sad》2014年
アクリルグワッシュ、カンヴァス

スサノヲの到来 一のち、いかり、いのり

2015年1月24日(土)－3月22日(日)

日本神話では破壊的なイメージで知られるスサノヲですが、既存のものを原点にもどし、新しい世界をひらくはたらきを同時にもっています。荒ぶる魂とともに、和歌の始祖として繊細な美意識を兼ねそなえ、古来多くの創作活動にインスピレーションを与えてきました。本展では、縄文土器にはじまり、神像などスサノヲに関わる歴史的な資料や、その精神に深くつながる業績を残した平田篤胤、南方熊楠、折口信夫らの資料、さらには岡本太郎、若林奮をはじめとする現代作家の作品群を一堂に展観することで、文化の古層にあるものが現代においていかに現れ出るのか、新たな視点から紹介します。



佐々木誠
《素戔鳴柱態》2010年
木、彩色

開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日(ただし祝日は開館し、翌平日に振替)、年末年始(12月25日～1月1日)、展示替え/メンテナンスの臨時休館

所在地：千葉県佐倉市坂戸631

交通：
・お車で→東関東自動車道「佐倉IC」から約5Km、無料駐車場300台完備
・電車+送迎バスで→JR総武本線「佐倉」駅または京成本線「京成佐倉」駅より無料送迎バス(JR佐倉→約20分/京成佐倉駅→約30分)
・高速バスで→東京駅八重洲北口の3番バス乗り場から1日1往復運行、片道約60分
展覧会の詳細など、最新情報はホームページでお知らせしております。

お問い合わせ：URL <http://kawamura-museum.dic.co.jp>

代表電話 0120-498-130(通話料無料・自動音声案内)



レスポンシブル・ケア®



<http://www.dic-global.com/>

Color & Comfort by Chemistry

当社の経営ビジョン「Color & Comfort by Chemistry」は、社会に対し、化学で彩りと快適を提案することを示しています。絶えざるイノベーションにより、顧客・社会・地球環境の持続可能な発展に貢献する、新たな価値の創造に全力を傾けてまいります。

